

# 江別市公共交通検討会議

## 背景・現状

○少子高齢化の進展  
江別市の高齢化率：25.5%  
(平成26年3月1日現在)

高齢化率は増加傾向にあり  
平成35年には35%を超える  
見込み

○バス交通の衰退  
バス利用者が減少  
昭和48年度 2,541千人  
平成23年度 593千人

バス路線の廃止、減便等

バス交通の衰退がさらなる  
利用者の減少を招く悪循環

## 江別市公共交通検討会議



- ・目 標：公共交通による移動確保、利便性、経済性の向上
- ・基本方針：江別市の特性を活かした公共交通体系
- ・事業計画：実現に向けた具体的な取組み方策と優先順位づけ
- ・事業評価：持続性の確保のための評価、改善等の検討

## 目 標

公共交通による移動確保、利便性、  
経済性の向上を図り、駅を中心とし  
た暮らしやすいまちづくりをめざす。

## 期待される効果

- ・駅を中心とした交通機能の向上
- ・バス交通の利用促進
- ・公共交通の維持確保

## 取組主体・関係者

- ・事業者(交通、その他)
- ・市民、利用者、団体等
- ・学識経験者、行政、コンサル等

## 具体的な政策課題・方向性

◆バス交通の利用促進  
・バス利用者を増やし、バス交通  
を持続可能にする必要

◆情報提供の推進  
・バスの利用方法、行き方等に  
関する情報をわかりやすく伝  
える必要

◆交通機能の向上  
・駅等との接続性、運行機能、  
利便性等を向上する必要

## 改善案(早期に取組可能、効果が期待できるものを重点的に検討し取組を進める)

- ①市民へのモビリティ・マネジメント活動
  - ・小学生、転入者、高齢者等への周知活動等
- ②バスの利用方法等に関する周知活動
  - ・自治会その他団体等への説明会、出前講座の実施

- ①多様な媒体を活用した情報提供
  - ・ホームページ、広報紙、既存コンテンツを活用した情報提供
- ②バスマップの改善
  - ・利用しやすいバスマップ(わかりやすい表示等)
- ③バス停の集約や案内看板等の充実
  - ・重複路線のバス停の集約化、駅等の案内看板の整備等
- ④バスの利用方法等に関する周知等
  - ・説明会や出前講座の実施

- ①駅を中心とした乗り継ぎ性の向上
  - ・バスダイヤの見直し、バス実証運行に向けた調査
- ②パークアンドバスライドの検討
  - ・駐車場や高速PAのバス停の活用について検討
- ③バス運行ルートやバス停の環境整備
  - ・冬季運行路線の除排雪の強化、バス停の除雪等の環境整備

# 江別市の関連計画

## えべつ未来づくりビジョン<第6次江別市総合計画(平成26~35年度)>

政 策：都市基盤  
基本目標：暮らしやすさを実感できるえべつに向けて都市基盤の形成をめざす  
基本方針：交通環境の充実  
公共交通の最適化  
駅を中心とした公共交通の再構築を基本として、公共交通の利用促進や最適化を図ることにより、市民の足を守る。

## えべつ未来戦略(平成26~30年)

戦 略：次世代に向けた住みよいえべつづくり  
戦略プロジェクト：駅を中心とした暮らしやすいまちづくり  
交通ネットワークの充実  
駅を中心とした公共交通を充実させることで、駅周辺から遠い郊外に居住する市民にも利便性のあるまちづくりをめざす。

## 都市計画マスタープラン2014[改訂版](平成26~35年)

将来都市像：みんなでつくる未来のまち えべつ  
基本理念：安心して暮らせるまち、活力のあるまち、子育て応援のまち、  
環境にやさしいまち  
都市づくりの目標  
駅を中心とした集約型都市構造~えべつ版コンパクトなまちづくり~  
歩いて暮らせる都市づくり  
駅周辺などの拠点間と他の地域を結ぶ公共交通のネットワーク化や必要に応じて生活  
利便施設の立地環境を整えることなどにより、多くの人が徒歩で暮らしやすい市街地  
形成を図る。

## 具体化に向けた取組み

- 公共交通の利用促進、情報提供の推進に向けた取組み
  - ・出前講座の実施(バス利用方法、ICカード利用等)
  - ・バス停、バスマップの改善等
- 交通機能の向上に向けた取組み
  - ・駅を中心とした交通機能の向上に向けた検討  
【その検討のために】
  - ・地域公共交通会議(学識経験者、バス事業者、運輸局等)による検討
  - ・バス実証運行に向けた交通調査実施(アンケート、住民意向調査等)
  - ・実証、検討により本格運行の可能性を探る
- 維持・確保に向けた取組み
  - ・支援のあり方の検討